校友時報

昭和43年7月15日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

十里強歩から白神岳登山へ

去る六月二十日、白神岳（標高1232m）と崩山への登山が行なわれた。これは今年から廃止された十里強歩に代わるものである。十里強歩廃止の理由は交通事故激増と真夜中に行なわれるだけに非行を誘発するためなどで、この廃止案は職員会議において提出された。この会議で廃止への賛成が圧倒的に多かったそうである。これでほぼ廃止が内定したと言えよう。また、十里強歩に代わるものとして登山が提案されたのもこの会議である。これに伴ない、学年別に各HRの生徒会員が校長室に集められ、十里強歩に代わるものとして登山以外に良い案はないか話し合った。しかし、良い案は得られず各HRを通して意見を求めたがこれもなく結局校長提案の登山に決定したものである。

ところで、白神岳へは三年生だけが頂上までとその中腹の二般までの二班に別れて登り、崩山へは一、二年生ならびに女子生徒が二班に別れて登った。ただここで問題になるのは汽車時間の関係で一二年生であるがために白神岳の頂上へ登れなかった人の中にも登りたかった人も多かったということである。これをどう解決するかが来年に残された課題であろう。

（詳しくは四面に）

三年目にして一万枚

木校JRCは生徒の協力を得て始めた古切手集めが、五月下旬に念願の一万枚を突破した。

木校の古切手集めは三年前にネパールの結核患者を救う目的で始められた。最初の二年間は無理などにゞ額を設けて生徒に協力を求めたがあまりよい成績は得られなかった。しかし三年目の今年は朝日新聞や毎日新聞に木校JRCの活動が取り上げられ、これをきっかけとして多くの協力を得ることができた。また団員の協力によって成果をあげることができた。三年生のある団員は古切手について次のように話していた。「古切手一万枚突破は三年目にして実を結んだが、一年目の時は正直言って一万枚は無理だと思っていた。これも団員の努力のおかげと思う。今後は大館鳳鳴高校（最近十万枚を突破している）を目標として、各方面に協力を求め着実に集めていきたいと思う」と語った。なお集められた古切手一万枚は、六月二日に日赤秋田支部へ送られたまでである。

先日の生徒総会の学校新聞に対する意見は次のようなものだった。「今までの風習を改め、ガリ版刷りにして一ケ月に二回位の割合で発行したほうがより効果的だ。」誰しもがこの意見を考えないわけにはいかなかっただろう。しかし、学校新聞の根本的精神はあくまでも関心のない人に我々なりの知識を与えるものであり、今日、明日のニュースを追い回すものではないのだ。ニュースを表面的ではなく深く考え自らを鍛えるものである。

学校新聞を作る側だけの物ではなくみんなの物にしようというのが今後の課題であろう。そのためには全生徒の積極的な意見と協力を必要とする。校内において学校新聞は唯一の伝達機関であるからして我々はそれを多くに利用すねばならないのではないだろうか。

これでいいのか!? 学校新聞

説部

急激な民主政治の発達に伴いマスコミの発達も著しく、我々が受ける影響も自然に増す一方である。特に流行たる物を追う者にとっては毎日のようにマスコミに目を傾けだければならないとのことである。ところで、学校新聞も常に全生徒の前に各クラブの輝かしい記録や校内・外のいろいろな問題を伝え、共に考えているにもかかわらず意外に読む人が少ないそのうえ、何の効果もないという読者の不熱心さが自立ち問題となっている。

新聞の発行日になろうと当番が苦労している状態を見た人はいないだろうか。むろん、学校新聞をただのちり紙同様細かく刻んで投げ捨てたり、鉛筆のけずりくずを包んで投げ捨てたりした心ない者の行為のためである。また休み時間はたいへんである。飛行機となって空中をさまよっているかと思えば、野球のボールの代用にされたりでわれにも無残な姿をさらけ出している。しかも、この捨てられた学校新聞を見て何とも感じないのが大部分の生徒である。読みたくないとでもいうのであろうか。これは各個人の良心の問題にもなるうし、教育の問題ともなろう。もしも、学校新聞を投げ捨てた者の中で「おれたちの読む読まないは自由であり、でもう一度述べるが学校新聞とは全生徒の前に問題を投げかけ共に考え、正しい知識を身につけるのだ」という声を。これはただ「朝鮮人問題」という問題を投げ捨てるのだ。

社会団体でもんでもない。ただの能代高校の生徒会の中にある一クラブに過ぎないのである。ここには全生徒の積極的な意見と協力を必要とする。校内において学校新聞は唯一の伝達機関であるからして我々はそれを多くに利用すねばならないのではないだろうか。

さて、五月に発行した第一一四号の「朝鮮人問題」を書くに当って、アンケートを取った際に次のような新聞部に対する悪口が舞い込んだ。「そんなことをやるのはまずだらない。新聞部は社会団体なのか」ということだった。新聞部は社会団体なのいわけにはいかなかっただろう。しかし、学校新聞の根本的精神はあくまでも関心のない人に我々なりの知識を与えるものであり、今日、明日のニュースを追い回すものではないのだ。ニュースを表面的ではなく深く考え自らを鍛えるものである。

学校新聞を作る側だけの物ではなくみんなの物にしようというのが今後の課題であろう。そのためには全生徒の積極的な意見と協力を必要とする。校内において学校新聞は唯一の伝達機関であるからして我々はそれを多くに利用すねばならないのではないだろうか。

奮起望む新応援団

前団長の辞任以来、低迷を続けていた応援団も、二十日からの中子團子選を控えてようやく再結一時は生徒会の企画部が応援団のかわりを務めるなどということもあった。しかし、それでは統率性に欠けるというのでこのたびの再選挙のはじとなった。まず、はじめに応援団長及び副団長の選挙が行なわれ、団長に鈴木貞祐（三B）、副団長に鈴木昭夫（三D）が選出された。そのあと七月一日には幹部の信任投票が行なわれ次の者が信任された。これによって応援団は確立されたわけである。

幹部信任投票結果

（有効投票総数 973票）

高山金悦（二B） 509票
水沢英一（二B） 533票
藤井恵一（二C） 584票
岩谷健作（二C） 530票
野呂文宏（二C） 591票
米森昭二（二D） 477票
高田 均（二D） 523票
金子 功（二D） 510票
渡辺一成（二E） 553票
柳岡邦男（二E） 520票
椀田昭夫（二E） 522票
佐々木正悦（二E） 520票
田村信紀（二A） 536票
大山 寿（二C） 524票

ケネデイ暗殺と日本

清水新昌

時評

先日一年生の或るクラスのホームルームで、最近最も印象的だったニュースを問うてみた。長島のホームランペースの快調をまくし立てるスポーツ興味型や、全学連の行動の是非を論じたり、参議院選挙の行方を見る政治志向型の生徒の外にロバート・ケネデイの暗殺に関するショックが如何に強烈であったかを述べた生徒が数名おり、今更ながら暗殺事件の影響力の強さに驚いたのである。感受性の鋭敏な若い生徒達はアメリカと言う資本主義の最高度に発達した国家が、一度めくると実はその内部にいびつに発達した駒部を隠し、それがケネデイ兄弟や、キング牧師の暗殺と言った人間の尊厳を否定する最も野蛮な行為となって現われてくるのを良きとっているのである。

それにしてもケネデイ兄弟の暗殺ほど劇的なものはない。ソビエトにキューバのミサイル基地を撤退させることに成功した兄ジョン・F・ケネデイはようく外交政策に自信を持ち初の宇宙中継を通じて彼の政治理念を全世界の人々に訴えようとしていた。結局彼は大統領自身の暗殺を中継すると言う悲しい結末になったのである。弟ロバート・ケネデイに至っては紙上に伝えられる通りである。彼の死により、米国は若き希望を同時に失ったと言っても過言でない。それは米国民にとって不幸であることは勿論日米関係の前途にも暗雲を投げかける。即ち一九七〇年の日米安全保障条約の改定を目前に控え、日米間の精神的協調は益々緊密になられねばならない時期なのである。かゝる時にアジアに於ける日本の重要さを知るケネデイ兄弟を一度なりず一度まで凶弾で失い病めるアメリカ社会の暗黒面をみせつけられては米国に対して日本国民が不信の念を抱くのは当然である。

キング牧師の暗殺は黒人問題の多難さを思わせ、原子力潜水艦による日本近海の放射能汚染、九州大学内への米軍用機の墜落は大学祭の景色にる等、最近の一連のニュースは日米関係を悪化させるのに事欠かない方向へと進んでいる。ジョンソン大統領のキャッチフレーズだった「偉大な社会建設」のビジョンはベトナム戦費の支出増大と黒人暴動の拡大化であえなく消え去り、外交政策にあってはベトナム戦争の敗退、日米関係の冷却傾向が憂慮される。兄ジョン・F・ケネデイの暗殺によって世界史の舞台に出演したジョンソン大統領はその無能ぶりを遺憾なく発揮し弟ロバート・ケネデイの死を葬送曲としてその舞台をドりようとしているのである。

（英語科担当）

点

▼「思いきって絶望しろ」と言った人がいた。「思い切って絶望したくましく成長していけ」ということだ。その通りかも知れない。人間は何かの希望を持ち努力し、絶望する場合は深く反省し二度と絶望しないように努める。そしてまた新しい希望を持ち……。▼つまり、希望は実現か絶望とに反省して人生の道を進むとも言える。

▼小さい子供は絶望を知らない。それは、彼らの眼がいつも自分で築きあげた心の中の世界に注がれているからだ。ところが、多くのおゝなは、空想なこの世界よりも広い現実の世界に眼を注いでいる。彼らはすでに、多くの希望・空想が破れたり、失なわれたりした経験も持っているからだ。▼青少年期はこの二つの時期の谷間にいると言えよう。つまり、現実の世界は体験でよく知っているが、また、多くの希望を持っている。単なる幼さで描いた子供の空想とは違った激しい情熱の希望をいだいている。そして多くの絶望も持っている。▼生きることに絶望した理由に、現実の社会の醜さ、矛盾をあげる人がいる。しかし、単なる自分の外の世界に絶望しただけでは本当の絶望とは言えないのではないろうか。自分の内の世界、つまり自分自身の矛盾、醜さなど共に現実の世界に絶望した時本当の絶望と言うのではないろうか。▼高校生活の現実の環境に絶望したり、学業成績などで自分の能力にいきづまりを感じやすい高校生活では絶望とめぐり合うのもしばしばあろう。▼高校生のころは心に大きな変化をきたす時でもある。淡い青春を夢み、心を動揺させ、現実の世界に絶望し、深く悩むこともある。このような絶望を体験することにより自身自身をより深くみつめ、自分の価値を知る力を得るのだと思う。▼りっぱな生き方を求めるなら、絶望の持つ意味を深く考えなくてはいけないということだ。

学生のみせ
学用品
キムラヤ
はたまち2－5535

◎正確なメガネ
◎書きよい万年筆で
勉強の能率をアップ！
力モヤ
畠町 T 2－3740

※男性腕時計※
※の決定品※
セイコー
ロードマチック
（23石・自動巻・防水 14000円）
セイコーなら
三田時計店
駅前 T 2－3522

●美しいカラーで
●夏のレジャーを楽しく
〔カメラの専門店〕
三羊堂
畠町 T 2－4946

梅雨にもすつきり と
軽快なあなた は
ポーラ
レース
プリントで
服地のセイワ
か ろやかに
お 過ごし下さい
柳町 T 2－4151

若い男性の
スタイルは
学帽から
高屋
大手町〔一小通〕T2－4988

優良医薬品
と
漢方
塚本薬局
畠町 T 2－5144